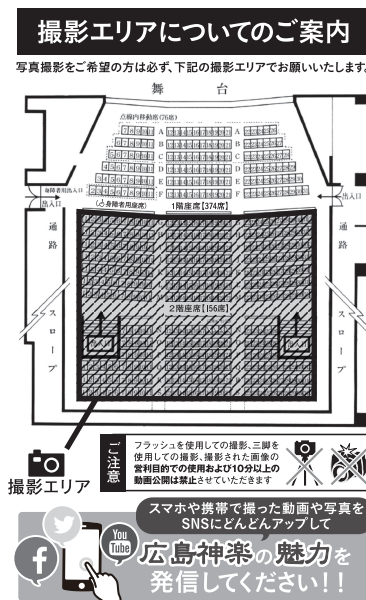


広島神楽

定期公演 へようこそ

本日はご来場いただき、まことにありがとうございます。
当公演では、全てのお客様に気持ちよく神楽を鑑賞していただくため、下記のルールを設けています。
ご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

(1) 座席での**飲食は出来ません**。ロビーをご利用下さい。
(2) 上演中の立ち歩きや大声での私語など**他のお客様のご迷惑になる行為**はご遠慮下さい。
(3) お子様連れの方は、お子様が舞台の前に出られると、演出等で**危険な場合**がございます。**着席**での鑑賞をお願いします。
(4) 撮影について
→写真撮影は右図の**撮影エリア**で行って下さい。
※**ビデオカメラでの動画撮影、フラッシュの使用は禁止**します。
(マスコミ関係など主催者の許可を得ている場合を除く)
以上です。どうぞ、最後までごゆっくりお楽しみ下さい。



10月9日のタイムスケジュール

出演:高井神楽団(広島市)

19:00～開演

19:05～第一幕『山姥』
(およそ35分)

～幕間(休憩)～

20:00～第二幕『大江山』
(およそ40分)

20:45～記念撮影会

衣装やお面を実際に見ていただき、記念撮影をしていただけます。携帯電話での撮影也大歓迎です。本日の記念に是非ご参加下さい。
また、神楽団との交流もしていただけます。疑問に思ったことなど、直接団員にお聞きください。
(舞台へは靴を脱いでお上がください。)

※記載の時間は目安です。多少前後する場合がございますので、あらかじめご了承ください。

たかいかぐらだん

高井神楽団プロフィール ～広島市佐伯区～

高井神楽団は佐伯区八幡三丁目に鎮座する八幡神社を拠点に活動しています。神楽団の歴史は古く、百数十年の伝統がありますが、一時期活動を休止していた時期がありました。時代は平成に変わり、神楽復活を願う神社関係者、また地域の方々の声に押され、平成9年に活動を再開し、現在に至っています。

近年は中国地方各地の神社への奉納、各種イベント、各地の競演(共演)大会、海外で公演するなど活動の場を広げています。また競演大会で「準優勝」「優勝」するなど実績を重ねております。これからも応援してくださる神楽ファンの方々や観客の皆様に喜んでいただける神楽団を目指し、舞方、奏楽、裏方一丸となり一生懸命演じてまいります。

第一幕『山姥』 やまうば

源頼光は東国の賊徒平定のため渡辺綱を共に連れ、信州安計呂山にさしかかりました。ここ安計呂山では、もとは都の北面の武士の妻が夫と死別して後、世間に冷たくされ日々の暮らしもままならず、ついに都を追われたことで、世を呪い人を恨みながら、一子怪童丸と共に隠れ住み、山賊になりさがっておりました。

山姥は、一夜の宿を貸して欲しいと訪ねてきた頼光一行を、館へと招き入れ、頼光一行が寝静まった頃を見計らい怪童丸と共に頼光に襲い掛かります。しかし頼光の力に屈し、せめてもと、怪童丸は我が子と告げ、見逃してくれるよう願います。

頼光は母の情に感じ山姥を許し、怪童丸を家来にし東国の賊徒平定に向かいます。

この怪童丸が後の四天王の一人、坂田金時となり頼光を助け活躍することになります。

大	太	鼓	—	明石	頼範
小	太	鼓	—	山地	博之
手	打	鉦	—	柿崎	直昭
	笛		—	比良	真紀子

山	姥	—	塚本	修久	
怪	童	丸	—	佐々木	尚大
源	頼	光	—	高松	一真
渡	辺	綱	—	畝岡	佑作

第二幕『大江山』 おおえやま

源頼光が、四天王を引き連れて大江山に住む鬼、酒呑童子を退治する物語です。

源頼光と、坂田金時、卜部季武の一行は山伏姿に変装し、神から神酒を授けられた後、酒呑童子が仲間たちと酒盛りをしている席を訪れ、一夜の宿を頼みます。不審に思った酒呑童子は真の山伏か否か問答を繰り返します。

頼光は神から授かった神酒を都の酒と偽り酒呑童子に勧め、やがて神酒の功德で力を失った酒呑童子を一網打尽に退治してしまいます。

大	太	鼓	—	佐々木	尚大
小	太	鼓	—	山地	博之
手	打	鉦	—	井上	堇
	笛		—	井上	桃

源	頼	光	—	橋本	潤	
卜	部	季	武	—	高松	一真
坂	田	金	時	—	畝岡	佑作
紅	葉	姫	—	濱本	拓海	
三	世	ケ	宅	—	吉川	幸晴
酒	呑	童	子	—	柿崎	直昭
茨	木	童	子	—	明石	頼範
唐	熊	童	子	—	栗栖	賢介

※出演者は予告無く変更になる場合がございます。
※助成/一般社団法人地域創造